

第二学年 国語科学習指導案

日時 令和三年九月二十八日（火）

場所 高山市立松倉中学校（二年D組教室）

学級 二年D組（男子十八名・女子十四名 計三十二名）

授業者 佐藤 智貴

一、単元名「論理を捉えて」 教材名「根拠の適切さを考えて書く」

二、単元および教材について

本題材は、社会的な課題を取り上げ、自分の立場を明らかにして意見文を書くものである。伝えたい事実や事柄が明確になるように工夫し、読み手に効果的に伝わることを意図して書くことができるようにする。読み手に自分の意見を納得してもらうためには、主張を支える根拠やその根拠に基づいた解釈を述べ、主張と根拠との関係性に整合性を持たせることが大切である。意見を支える強い根拠となるよう、根拠の妥当性や、主張との関係性について吟味し、適切な根拠を示すことができるようにしたい。また、根拠の適切さを考えるときにも、自分の意見に対する反論を想定し、それに対する意見を述べることで説得力が増し、意見の正当性が強調されることを理解させたい。

三、生徒の実態

生徒は第一学年「根拠を明確にして魅力を伝えようー観賞文を書く」において、作品の魅力を伝えるために、段落の役割を考えて文章を構成することや具体的な事実を取り上げて、自分の感じたことの根拠を明確にして記述することを学習している。単元の学習を通して、作品の魅力を感じる「具体的な特徴」を挙げ、そこからどのような魅力を感じたかという自分の考えを書くことができるようになってきた。また、根拠を基に自分の考えを書くことも学んできた。授業や定期テストにおいて自分の考えを書く際にも、意欲的に取り組む生徒が多く、書くことに対する苦手意識は少ない。しかし、主張と根拠のつながりが曖昧で、根拠が書けていても、その関係性を吟味して、説得力のある根拠を精選し、適切な根拠を考えることに対しての弱さが見られる。

そこで、本単元では職場体験先の寝屋親さん（受け入れ先）に向けて意見文を書くという活動を通して、「寝屋親さんに納得してもらおう」という相手意識を明確にする。また、自分の意見の根拠が確かな事実に基づいているか、事実に対して適当な解釈から導き出した考えを根拠としているかなど、サンプル文を効果的に用いて気づかせたり、小集団で吟味し合ったりすることで、説得力のある意見文にするための根拠のあり方を理解させたい。自分の意見に合わせた事例を取り上げ、それに対する解釈を加えたり、反論を予想してその対応を考えて示したりすることで、自分の意見により説得力を持たせられることを理解して記述できるようにしたい。

四、「生きてはたらく言語能力」の育成について

中学校学習指導要領解説「思考力・判断力・表現力等」 「B 書くこと」(中) 第二学年より

○イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫する

◎ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

本教材では、学習指導要領「イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること」を、「文章の役割に応じて伝えたい事実や構成を適切に位置づけることができる」と具体化した。これを受けて、本単元では、「頭括型」・「尾括型」・「双括型」の三種類の例文を提示し、それぞれの構成法のよさを理解させた上で、自分の目的や意図に適した構成法を各自が選択することで、構成を工夫できるようにしていく。

学習指導要領「ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること」を、「分かりやすい説明や具体例を加えることで、効果的に表現している」と具体化した。自分の意見を支える根拠として、客観的な事実を挙げたり、その事実に対する自分の見方や考え方を示したりすることで、説得力が増すことを理解させる。また、同じ視点の事実を並列で並べる、別の視点からの事実を並べるなど、様々な事例の取り上げ方があり、それらが自分の主張に合っているかどうかを吟味し、適切な根拠を選べるようにする。

五、研究に関わって

研究内容(1) 指導計画の工夫

② 生徒が魅力や書く必然性を感じる題材の工夫

本校では、キャリア教育を推進しており、生徒が三年間同じ事業所と関わりをもつ「寝屋子プログラム」を実施している。一年時の職場見学、二年時の二回の職場体験の他、年賀状のやりとりや、部活動や進路の報告など、事業主と生徒が、寝屋親と寝屋子の関係結び、働くことの大変さややりがいはもちろん、生き方を学ぶことを目的としている。そこで、意見文を書くにあたって、生徒が「書きたい」「書かなくてはならない」といった魅力や必然性をもつことができるよう、寝屋親さんからの「地域の事業所・職業の魅力を伝えるために、中学生のアイデアや意見を伺いたい」という依頼を示す。「お世話になってる寝屋親さんのために」という相手意識と、「自分のアイデアで地域の職業の活性化をはかりたい」という思いをもてるようにしたい。

研究内容(2) 指導・援助の工夫

① 「主體的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導過程の工夫

■主體的な学び

生徒によって寝屋親さんは異なる。よって、『寝屋親さんに、「このアイデアなら魅力的な職業につながる」と納得してもらえよう意見文を書く』というテーマは同じでも、職種や事業所によって考える内容は様々であるため、自分が考える必要があるという必然性が生まれ、より主體的に学習に取り組めると考える。

本時では、生徒が主體的に学習に取り組み、書き方を発見する喜びを味わえるように、教師が本時目指したい根拠の書き方を取り入れた例文を提示する。生徒は、自分の情報メモと比較しながら、説得力が増す書き方を発見していく。自分の「主張」について、どんな「根拠」が適切なのかを主體的に考え、自分で選び取り、解決できるようにしたい。

■対話的な学び

少人数グループを編成し、仲間と聞き合いながら学習を進める。個人追究を行う中で、考えることに行き詰まったり、疑問点が生まれたりしたとき、グループの仲間と積極的に訊くこと、個人追究がひと段落したところで、お互いの考えを確認し合ったり、疑問を訊き合ったりすることが自然とできるように、学習形態を工夫する。提示した二つの例文を比較しながら、よさや課題について考える活動を通して、「Aがいい」「Bがいい」という意見だけでなく、「Aもいいけど、Bにもよさがある」、「AでもBでもいいなら、どちらを選んだらいいのだろうか」という迷いが生まれる生徒もいるだろう。揺れ動きながら考えを交流する中で、深め合う様子へと変化し、活発な話し合いとなる姿を目指したい。

また、自分の選んだ「根拠」が「主張」とつながっているのか、「主張」に説得力を持たせるうえで適切なのかを、仲間と評価してもらい、アドバイスをもらう。

■深い学び

本時の出口は、学んだことを生かして、自分の「主張」に合った、より効果的な事例の取り上げ方を吟味して、適切な「根拠」を選ぶことである。そこで、前時に自分が選んだ「根拠」と、本時のまとめで選んだ「根拠」を比較させ、仲間からの評価をもらう。自分の選んだ「根拠」が適切であったと実感できたり、自分の「主張」により説得力をもたせるために別の「根拠」を選び取ったり、違った視点からもう少し調べてみたいという見通しをもったりすることができるようになりたい。「今日学んだことを使うと、確かに意見文の説得力が増した」と実感できるように、学習の高まりを実感しながら進めるようにしたい。

研究内容(3) 評価の工夫

単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方

第一時では、自分の寝屋親さんからの要望に合わせて、どんなアイデアがあるかを考え、浮かんだアイデアの中から最も魅力的なアイデアを「主張」として選ぶ。第二時では、第一時で考えたアイデアをもとに、実際に簡単な意見文を書いてみる。単元末には、完成した意見文とはじめに書いた意見文と比較をさせることで、「なぜ説得力が増したか」を考えさせ、誰のどんな考えに触れて、自分の考えがどう変わったのかを自覚することによって、学びの深まりを実感させる。

また、単元末だけでなく、毎時間、最初の意見文や前時までの意見文と比較させたり、仲間と考えを交流しながら、自分の考えをまとめさせることで、「自分の選んだ根拠に納得できた」「反論を想定して、意見を述べることができた」「文章の展開や構成を工夫できた」「自分の意見文に説得力があると感じられた」など、自己の高まりを実感させたい。個人追究、全体交流という流れではなく、必要な時に必要な方法で学ぶ(多様な追究方法)ことで、相互に対話する中で、自己の考えを振り返り、改訂することができる。その営みを通して、自己の考えを自覚し、高まりを実感しながら追究できると考える。

六 単元構想図 2年生「根拠の適切さを考えて書こう」(全8時間)

【第2学年【思考力・判断力・表現力】B「書くこと」ウ】

根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。

【本単元で身に付けたい資質・能力の系統】

小高: 目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して語りするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

1年: 根拠を明確にしながjら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

3年: 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。

【「書くこと」における生徒の実態】

自分の考えを書くことに意欲的に取り組む生徒が多いが、主張と根拠の関係性を吟味して、説得力のある根拠を精選し、適切な根拠を考えることに対しての弱さが見られる。自分の意見を書き表すことに意識が向けられ、意見が主観的な内容に陥ったり、意見の根拠が適切かどうかを判断したりする経験が少ないからだと考えられる。

そこで、本単元では相手意識を明確にし、自分の意見に合わせた事例を取り上げ、根拠の妥当性や、主張との関係性について吟味し、適切な根拠を示すことができるようにしたい。また、反論を予想してその対応を考えて示したりすることで、自分の意見により説得力を持たせられることを理解して記述できるようにしたい。

【育成すべき資質・能力とのつながり】

自分の意見の根拠が確かな事実に基づいているか、事実に対して適当な解釈から導き出した考えを根拠としているかなどを吟味する活動を通して、自ら課題を見つけ、それを解決するためにはどうしたらよいかを考えさせたい。自分の意見の根拠が、説得力のあるものになっているかということについて文章を吟味し、意見を支える適切な根拠を自ら選び取り、自分の意見が相手に伝わるように工夫できたとき、松倉中学校の生徒に育成すべき資質・能力を育むことができたと捉えたい。

【単元の言語活動】

寝屋親さんに納得してもらえる意見文を書く。

【本単元の評価規準】		
<知識・技能> 文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めている。	<思考力・判断力・表現力>◎ 「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	<主体的に学習に取り組む態度> 人間、社会、自然などについて進んで自分の意見をもち、文章にまとめている。

【松倉中の生徒に育成すべき資質・能力】
仲間と協力しながら、
自ら考えを導き出す力

■より説得力のある文章にするために、意見と根拠を明確にして書く。

第5時(本時) 第7時

【ねらい】
意見を支える「根拠」として、どんな事例をどのように書くときよいか考える活動を通して、主張に合わせた事例を取り上げて書くときよいことに気づき、自分の主張に合わせた事例の取り上げ方を吟味して選ぶことができる。

【評価規準】(思・判・表B(1)ウ)
「根拠」として取り上げる事例を吟味し、書くことができる。

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】
仲間と交流しながら、事例の取り上げ方を吟味し、根拠を書く姿。

【ねらい】
意見、根拠、反論を想定した意見をどのような順序で書くかを考えて構成メモを作成し、メモをもとにして意見文にまとめることができる。

【評価規準】(思・判・表)
構成メモを基に、意見文を書いている。

【ねらい】
意見文の説得力について考える活動を通して、客観的な事実や信頼性の高い情報を用いることや、意見と根拠のつながりを明確にすることが大切であることに気づき、自分の意見文に必要な根拠について見通しをもつことができる。

【評価規準】(思・判・表B(1)ウ)
自分の主張を支える情報について考えをもっている。

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】
意見文を読み合い、説得力について考える姿。

【ねらい】
反論を想定した意見を書くときは、主張の問題点とその解決策を書けばよいことに気づき、反論を想定した意見を書くことができる。

【評価規準】(思・判・表Bウ)
反論を想定した意見として、自分の主張の問題点とその解決策を書いている。

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】
仲間と交流しながら、自分の主張の問題点について考え、その解決策を書く姿。

■学ぶ目的と必然をもつ。

第1時 第2時

【ねらい】
寝屋親さんからの要望に対して、どんなアイデアがあるか、自分の意見をまとめることができる。

【評価規準】(態度)
寝屋親さんの要望について関心をもち、貴く課題を理解し、学習の見通しをもっている。

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】
寝屋親さんの要望に対して、仲間と共に交流し、アイデアを出し合う姿。

【ねらい】
前時考えたアイデアをもとに「主張」と「根拠」をまとめた意見文を書くことができる。

【評価規準】(思・判・表B(1)イ)
寝屋親さんの要望に対して、「主張」と「根拠」を意見文に書いている。

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】
寝屋親さんの要望に対して、進んで自分の意見をもち、文章にまとめる姿。

【単元を貫く課題】

寝屋親さんに「なるほど、このアイデアなら魅力的な職業につながる」と納得してもらえる意見文を書く。

【育成すべき資質・能力に関わる本単元の具体的な姿】

自分の意見文の根拠が、説得力のあるものになっているかということについて文章を吟味し、自分の意見が伝わるように工夫する姿。

■書いた文章を読み合い、よい点や改善点を見出す。

第8時

【ねらい】
意見文を互いに読み合うことを通して、主張の明確さ、根拠の適切さなどについて相互評価・自己評価をし、考えの深まりについて自分の考えをまとめることができる。

【評価規準】(思・判・表C(1)エ)
説得力のある文章にするための工夫について交流したり、助言し合ったりし、これまでの学習を振り返って、自分の表現に役立てようとしている。

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】
仲間と意見文を読み合い、自分の意見文の良さ考えたり、意見文をよりよいものにしようとしていたりする姿。

【単元末の子どもの意識】

説得力のある意見文にするには、客観的で信頼性の高い事実を根拠にしたり、主張とのつながりを考えたりすることが大切だ。また、情報を見返したり、仲間と課題について話したりして反論を想定することで、意見をより明確にしたり、意見を強く支える根拠を導き出したりすることができた。自分の意見がしっかりと伝わる文章になるような工夫ができたから、寝屋親さんにも、納得してもらえる意見文になったと思う。

【導入時における子どもの意識】

自分の意見とその根拠を書けば、説得力のある文章になると思っていた。もっと、自分の意見に説得力をもたせるためにはどうしたらいいのか、自分の考えが伝わる意見文にするには、どんな表現の工夫があるのか考えてみたい。そして、単元の最後には、自分の意見に対して、寝屋親さんが納得してくれるような説得力のある意見文を書いて、寝屋親さんに喜んでもらいたい。

七、本時のねらい

意見を支える「根拠」として、どんな事例をどのように書くときよいか考える活動を通して、主張に合わせた事例を取り上げて書くことよいに気付く、自分の主張に合わせた事例の取り上げ方を吟味して書くことができる。

八、本時の展開（五／八）

教師の働きかけ	学習活動	研究内容に関わって
<ul style="list-style-type: none"> ・前時は自分の「主張」を支える「根拠」となる情報を調べてメモしたね。今日はそのメモを文章にしていけます。そのうえで気をつけるべきことってどんなことがあるだろう？ ・今日は例文を見ながら、どのような「根拠」の書き方をすれば説得力が増すのか、考えていきましょう。 ・（例文を示す）「生産者が消費者の様々な声を聴くことで、魅力のある農作物作りにつながる」という主張につながるように、実際の消費者の声を根拠として選びました。さらに説得力を増すためには、A・Bどちらの根拠が適切だろうか。 ・それぞれの良さは？ ・よくない点やもつところ ・したらいい点、疑問点？ ・AとBの違いを明らかにして、気づいたことや考えたことをまとめよう。 ・どちらにも、良さがあることがわかるね。「主張」とつながるのは、どちらの「根拠」だろう。 ・Aを選んだ場合、Bを選んだ場合、それぞれ、改善するところはあるかな？ ・交流を通して学んだことを自分の意見文に生かそう。どの「根拠」を選ぶ？その理由は？ ・同じ視点の事例を並列で並べて、「主張」に厚みをもたせたいんだね。 ・「主張」や「根拠①」とつながっていることを明確にしたうえで、別の視点から「根拠」を示したいんだね。 ・班の仲間からアドバイスをもらおう。選んだ根拠に納得できるか。改善点はないか。別の視点は？ 	<p>◇前時までの進捗状況を確認し、本時の活動に見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み手に分かりやすいように書く。文章と文章のつながりを工夫する。接続語を使う。具体例を取り入れる。 <p>◇単元を通して言語活動や既習事項をもとに、課題をつかむ。</p> <p>どのような根拠の書き方をすれば、説得力が増すのだろうか。</p> <p>◇【主張】と【根拠①】に付け加える【根拠②】として、サンプル文章を二種類提示し、どちらが説得力を増す効果的な書き方になるのかを考える。</p> <p>【主張】私は（佐藤農園）さんに、「販売方法の工夫」をし、魅力ある野菜づくりに生かすことを提案する。具体的には、インターネットで注文を受け、消費者に直接届ける方法だ。なぜかという、ネットを通して消費者と直接やりとりすることで、消費者の生の声を聞くことができ、良さを改善点を今後の野菜づくりに生かせると思うからだ。</p> <p>【根拠①】（消費者の声） インターネットで検索すると、農家のネットショップや野菜の直販サイトがたくさん見つかる。そこには「もつと甘みのある野菜が食べたい」など、消費者の生の声が寄せられていた。</p> <p>【根拠②】A（消費者の声） 実際、茨木県の梨農家・矢口さんも、梨のネット販売を取り入れた一人だ。ネット販売を始めると、消費者から「梨を食べなかつた子が、矢口さんの梨はあつという間に食べました！」という声が寄せられた。自分の育てた農作物が認められることで、「今後もより質の高い梨を作ろう」と思えたそう。このことから、インターネット販売を行うことで、消費者の生の声を聞く機会が生まれ、その声を今後の農作物づくりに生かせるといえるだろう。</p> <p>【根拠②】B（インターネットの利用状況） また、近年、ネットショップの利用者が増えているというデータもある。「生活者一人アンケート調査」によると、二〇〇〇年に五%だったネットショッピングの利用者数は、二〇一八年には五十八%まで増加しているそう。日本人のおよそ六割の人がネットショップを利用しているのだ。このことから、インターネット販売を行うことで、より多くの人に自分の作った野菜を届けることができ、売上をのばすことにつながるというだろう。</p> <p>◇考えたことを全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【A】は①と同じ視点に絞って事例を並べている。具体的な事例を挙げて、さらに詳しくなっている。様々な声があることが分かり、主張とつながっている。 ・【B】は①とは別の視点で事例を挙げている。具体的な数値があり、多くの人の意見が反映されている情報で説得力がある。主張が「農作物の魅力が広がる」だったら、【B】もよいと思う。 <p>同じ視点から深めたり、違う視点から広げたりする方法がある。どちらを選ぶにしても、主張と根拠のつながりを明らかにする必要がある。</p> <p>◇「主張」を支える「根拠」メモを見直し、ワークシートに「根拠」をまとめる。</p> <p>◇選んだ事例や書き方が適切かグループで交流する。</p> <p>◇本時学んだことをまとめる。</p> <p>Aの方法で書くこうと考えていたが、班交流で主張とつながてみたときに、複数の視点からの事例がある方が説得力が増すと指摘された。自分で読み比べても実感できたので、Bの方法で書くこうと思う。</p>	<p>●研究内容①②「主体的」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のテーマについての「主張」を明らかにし、前時までに、集めた情報の付箋に小見出しをつけさせることで、主張を支える根拠として、どんな事例を取り上げるとよいかを考えさせておく。 ・サンプル文を二種類提示し、「同じ視点の事例を並列で並べ、理由につながる書き方」と「二つの事例について、別の視点からの事例を挙げる書き方」を比較して考えられるようにする。 <p>●研究内容③「対話的」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンプル文について、それぞれの違いを明らかにして、よさや改善点を考えさせる。 ・個人追究を行う際、小グループで疑問点を訊き合う。個人追究がひと段落したところで、お互いの考えを確認し合ったり、疑問を訊き合ったりする。 ・全体で意見を交流し、考えを広げる。 <p>●研究内容④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時に学んだ視点を生かし、「主張」を支える「根拠」を選ぶことができているかを小集団で評価しあうことで、学びを実感させる。 <p>評価規準【思・判・表B（ウ）】</p> <p>「根拠」として取り上げる事例を吟味し、書くことができる。（ワークシート）</p> <p>※ここでは、「主張と根拠のつながり」について、①主張のどの部分の説明なのか、②どのようにつながっているかが明確になっているかを評価する。</p>